Beijing, China, September 21-27, 2006.
平松　章男　HIRAMATSU, Akio

2006 年 9 月 21 日～27 日の日程で、中国・北京（Beijing）の中国科学院数学与系統科学研究院（Academy of Mathematics & Systems Science, Chinese Academy of Science）で開催された The Seventh International Symposium on Knowledge and Systems Science (KSS'2006)に参加しました。この学会には中森先生や Wierzbicki 先生をはじめ、中森研究室から宮下さん、千原さん、Ren 君、Nie 君、そして大連に留学中だった菊池さんも一緒に参加しました。

最初に関西空港発の飛行機が 2 時間ほど出発の遅れるトラブルもありましたが、その日の夜には無事に北京へ到着しました。宿舎は学会会場でもある中国科学院の敷地内にあるホテルで、朝食や夕食だけでなく学会期間中の昼食もこのホテルの食堂を利用しました。特に朝食は、2 元（約 32 円）という値段で好きなだけ食べられました。

中森研メンバーの Nie 君が AMSS(CAS)出身ということもあり、学会の合間に彼の案内で北京市内の天安門広場や故宮博物院（紫禁城）など名所旧跡のほか、王府井の繁華街も見て回ることができました（写真は天安門前、左から二人目が筆者）。

さて肝心の学会の方は、1 日目、2 日目とも午前中が階段教室での全体講演、1 日目の午後は 4 つの教室に分かれた分科会、2 日目の午後は 3 つの教室に分かれた分科会と全体講演が行われました。分科会 のテーマは Knowledge Science、Knowledge Creation and Support System 、Knowledge Management 、Complex System Modeling and Analysis 、Knowledge Management Practice などで、各々の研究発表と質疑応答が行われました。筆者も怪しげな（？）英語で研究発表を行いましたが、同じ分科会の英国や中国の研究者から、研究に関する有益な助言を頂きました。

また学会に付随したツアーとして、夜の京劇観賞や万里の長城見学がありました。京劇観賞では独特の仮面を付けた演者の派手な立ち回りのほか、楽器演奏、手品、少林寺拳法の演舞、漫才風のパフォーマンスが楽しめました（ただし、言葉は分かりませんでしたが）。一方、万里の長城（幕田峪）見学では、西暦 1400 年頃の明の時代に建築されたという城壁から、中国大陸の悠久の歴史と広大さを実感することができました（写真）。

以上のように KSS'2006 へ参加させて頂いて、中国の歴史、伝統芸能、世界遺産、そして食文化に触れることができたのは、筆者にとって研究発表以上に有意義なことだったと思います。そしてこの北京滞在を支障なく行えたのは、中森研の中国人留学生、Nie 君、Ren 君のおかげです。ここに記して感謝申し上げます。